

# 3-5 ホーンセクションの アーティキュレーション(奏法)

# アーティキュレーションの基本

アーティキュレーションとは、演奏に多彩なニュアンスをつける行為、あるいは記号、奏法などのことをさす。アーティキュレーションのない演奏は無味乾燥とした機械的なものだが、様々なアーティキュレーションをつけることによって、生き生きとした人間味溢れる演奏が実現できる。

## 【参考】モックアップにおけるアーティキュレーション

モックアップにおいては、さまざまな「奏法」をあらわす意味で「アーティキュレーション」という言葉が使用されることがある。

スピッカートやアクセントなど、独自の奏法を収録した専用の音色が用意されており、これらを総じて「アーティキュレーション」と呼ぶことも多い。

# ホーンセクションのアーティキュレーション①

## ■ レガート・スラー



2つ以上の音を切れ目なくつなげて演奏する奏法。レガートやスラーが表記されたフレーズ内は、息継ぎやタンギングをしないで演奏するため、滑らかに音がつながるのが特徴。

## ■ スタッカート



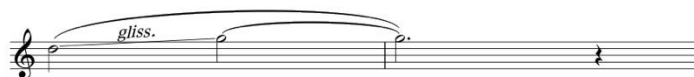
ひとつひとつの音を短く切って演奏する奏法。細かい音符でスタッカートが連続する場合は、ダブルタンギング、トリプルタンギングといったタンギングのテクニックを使う。

## ■ マルカート



ひとつひとつの音をはっきりと演奏する奏法。ベロシティでアタックを強めることでアクセントに変化させることもできる。

## ■ グリッサンド



指定した音程を滑らかにつなげて演奏するテクニック。トロンボーンでは無段階に、トランペット、サクソでは2音間を半音やスケールでつなげて演奏するのが基本。

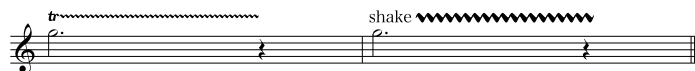
## ■ グリスアップ・グリスダウン



指定したノートへ駆け上がる、または指定したノートから駆け下がる奏法。後者は「フォール」ともいう。

# ホーンセクションのアーティキュレーション②

## ■ トリル・シェイク



2つの音程を交互に素早く行き来しながら演奏する奏法。2度で行き来する場合をトリル、3度以上で行き来する場合はシェイクと覚えるとわかりやすい。

## ■ フラッタータンギング



巻き舌をしながら演奏する奏法。ブルブルとした荒々しい音色を得ることができる。

## ■ グロウル



喉をうならせながら演奏する奏法。ディストーションのような歪んだ音を出すことができる。

## ■ コン・ソルディエーノ



いわゆる「ミュート(弱音器)」をつけて演奏する奏法。ストレートミュート、カップミュート、ハーマンミュートなど、ミュートの種類も様々で、それぞれ特有の音色を持っている。

## ■ ハーモニクス(フラジオ)



サクスのみの特殊奏法。いわゆるハーモニクスで、倍音を演奏することで音域外の高音を演奏することができる。

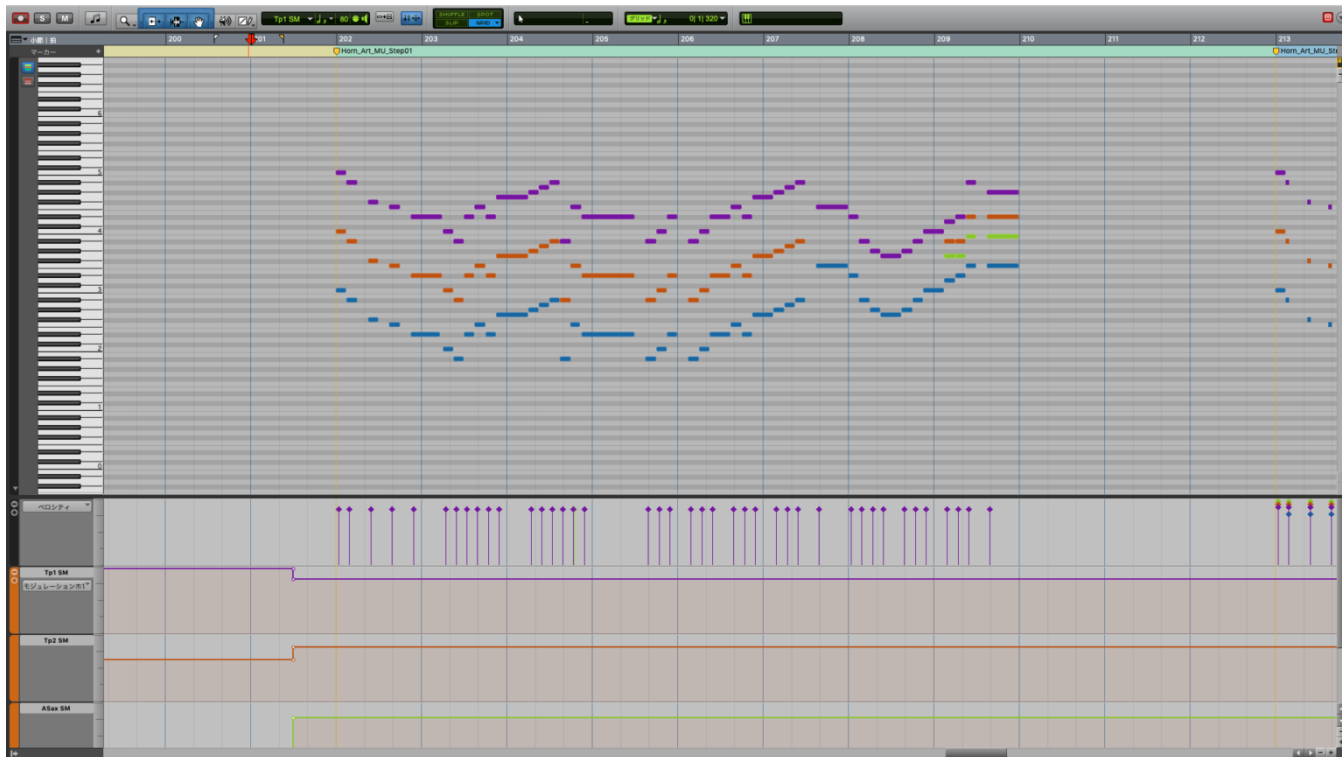
# ホーンセクションの モックアップ手順

# ホーンセクションのモックアップ手順

- ① ベタ打ちする
- ② 必要なアーティキュレーションを選定する
- ③ ベロシティ&デュレーションを調整する
- ④ アーティキュレーションを専用音色に置き換える
- ⑤ エクスプレッションを書く
- ⑥ 微調整して仕上げる

# ① ベタ打ちする

まずはシンプルにフレーズをベタ打ちしよう。手元に楽譜があるなら、楽譜の通りに打ち込めばOK。



## ② 必要なアーティキュレーションを選定する

つぎに、フレーズの演奏に必要なアーティキュレーションを選定していこう。打ち込む前に、以下の4点を歌いながら見つけていくとよい。

- スラーをつけたい場所
- スタッカートで短く切って演奏したい場所
- マルカートではっきり演奏したい場所
- アクセントで強調したい場所

気持ちよく歌えるアーティキュレーションが決まったら、楽譜にアーティキュレーションを書き込んでいくのがオススメ！



## ② 必要なアーティキュレーションを選定する

Horn Section 『Margin Call』 Horn Ver. 稲毛 謙介

Intro ♩ = 160

Trumpet 1 *ff* *f*

Trumpet 2 *ff* *f*

Alto Sax *ff* *f*

Trombone *ff* *f*

Tp.1 *ff*

Tp.2 *ff*

A. Sax *ff*

Tb. *ff*

V.S.

©OTO×NOMA ©TEMPEST STUDIO

©OTO × NOMA ©TEMPEST STUDIO

OTO×NOMA

## ③ ベロシティ、デュレーションを調整する

つぎに、ベロシティとデュレーションを調整していく。以下のように調整しよう。

### ● レガートで演奏したい場所

- 全てのノートのデュレーションをスキマなく接着させる
- ベロシティで先頭のノートのアタック感を決める

### ● 歯切れ良く演奏したい場所

- 各ノートの間にスキマを設ける
- スタッカート、マルカート、アクセントがそれぞれ気持ちよく聞こえるアタック感をベロシティで調整する

### ③ ベロシティ、デュレーションを調整する

The screenshot displays a music production software interface. The top section is a piano roll for a horn part, with a keyboard on the left and a timeline from 211 to 224. The piano roll contains several notes, each with a colored stem (purple, orange, blue). A black box highlights a section of the piano roll with the text "アーティキュレーションに合わせてデュレーションを調整" (Adjust duration according to articulation). Below the piano roll is a velocity lane, also with a black box highlighting it and the text "ベロシティも各アーティキュレーションが引き立つように" (Adjust velocity so that each articulation stands out). The velocity lane shows vertical lines with colored dots at the top, corresponding to the notes in the piano roll. The interface includes a toolbar at the top and a track list on the left.

アーティキュレーションに合わせてデュレーションを調整

ベロシティも各アーティキュレーションが引き立つように

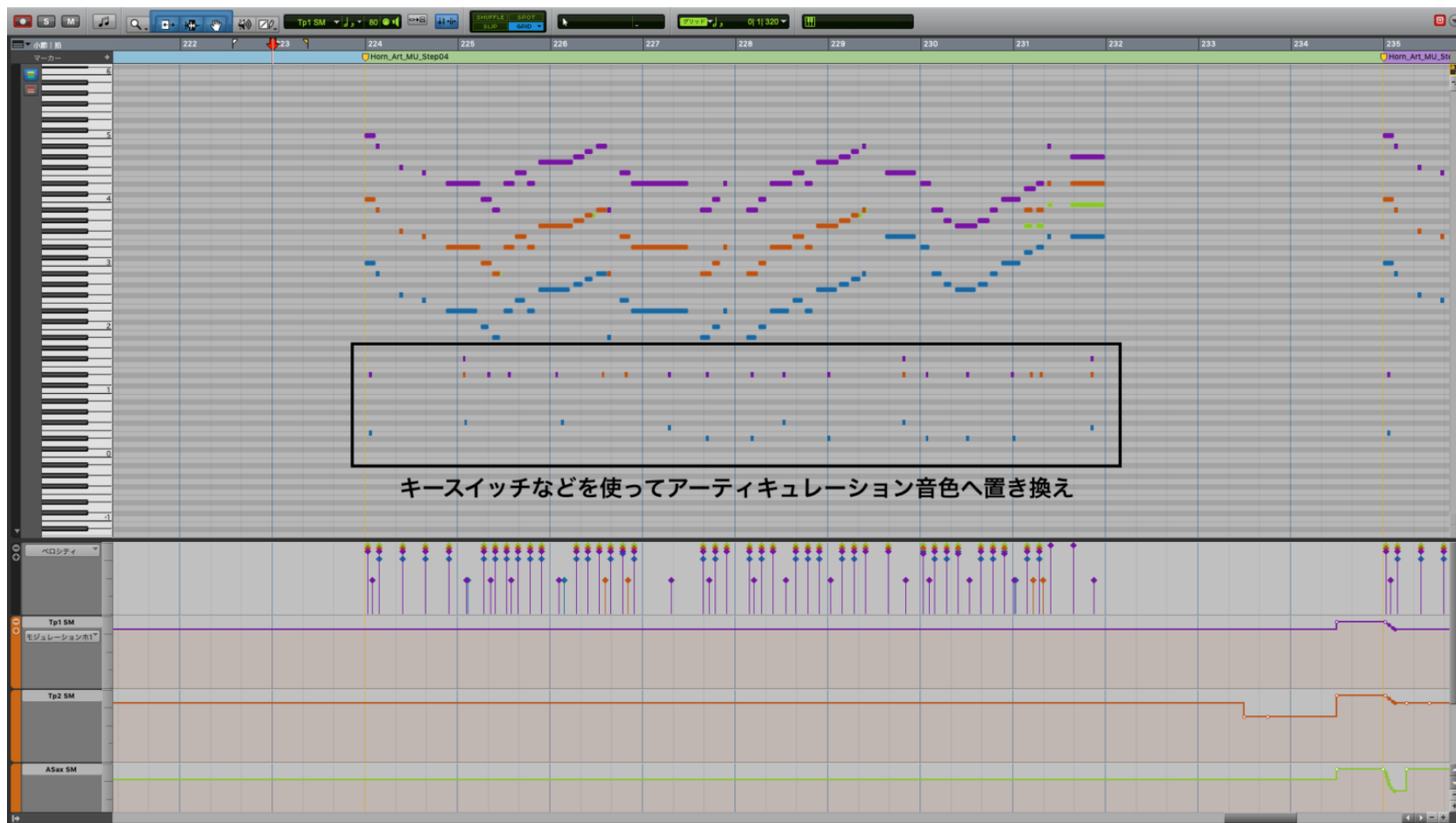
## ④ アーティキュレーションを専用音色に置き換える

つぎに、各アーティキュレーションを専用音色に切り替えていく。キースイッチをうまく活用するのもオススメ。以下のものはこのタイミングでしっかり置き換えておこう。

- エクスプレッションの必要ないスタッカート
- 明らかに音色が変化する特殊奏法

一方、マルカートやアクセントに関しては、エクスプレッションで表現した方がリアルになることも多いため、この時点では無理に置き換えなくてもOK。

## ④ アーティキュレーションを専用音色に置き換える



The screenshot displays a music production software interface. The top section is a piano roll with a keyboard on the left and a timeline from 222 to 235 on the top. A horn part is visible, with notes in purple, orange, and blue. A black box highlights a specific area of the piano roll. Below the piano roll is a MIDI piano roll with a vertical axis labeled 'ベロシティ' (Velocity) and a horizontal axis labeled 'モジュレーションホ1' (Modulation 1). The MIDI piano roll shows a series of notes with varying velocities and modulation values. The bottom section shows a MIDI piano roll with a vertical axis labeled 'ベロシティ' (Velocity) and a horizontal axis labeled 'モジュレーションホ1' (Modulation 1). The MIDI piano roll shows a series of notes with varying velocities and modulation values. The bottom section shows a MIDI piano roll with a vertical axis labeled 'ベロシティ' (Velocity) and a horizontal axis labeled 'モジュレーションホ1' (Modulation 1). The MIDI piano roll shows a series of notes with varying velocities and modulation values.

キースイッチなどを使ってアーティキュレーション音色へ置き換え

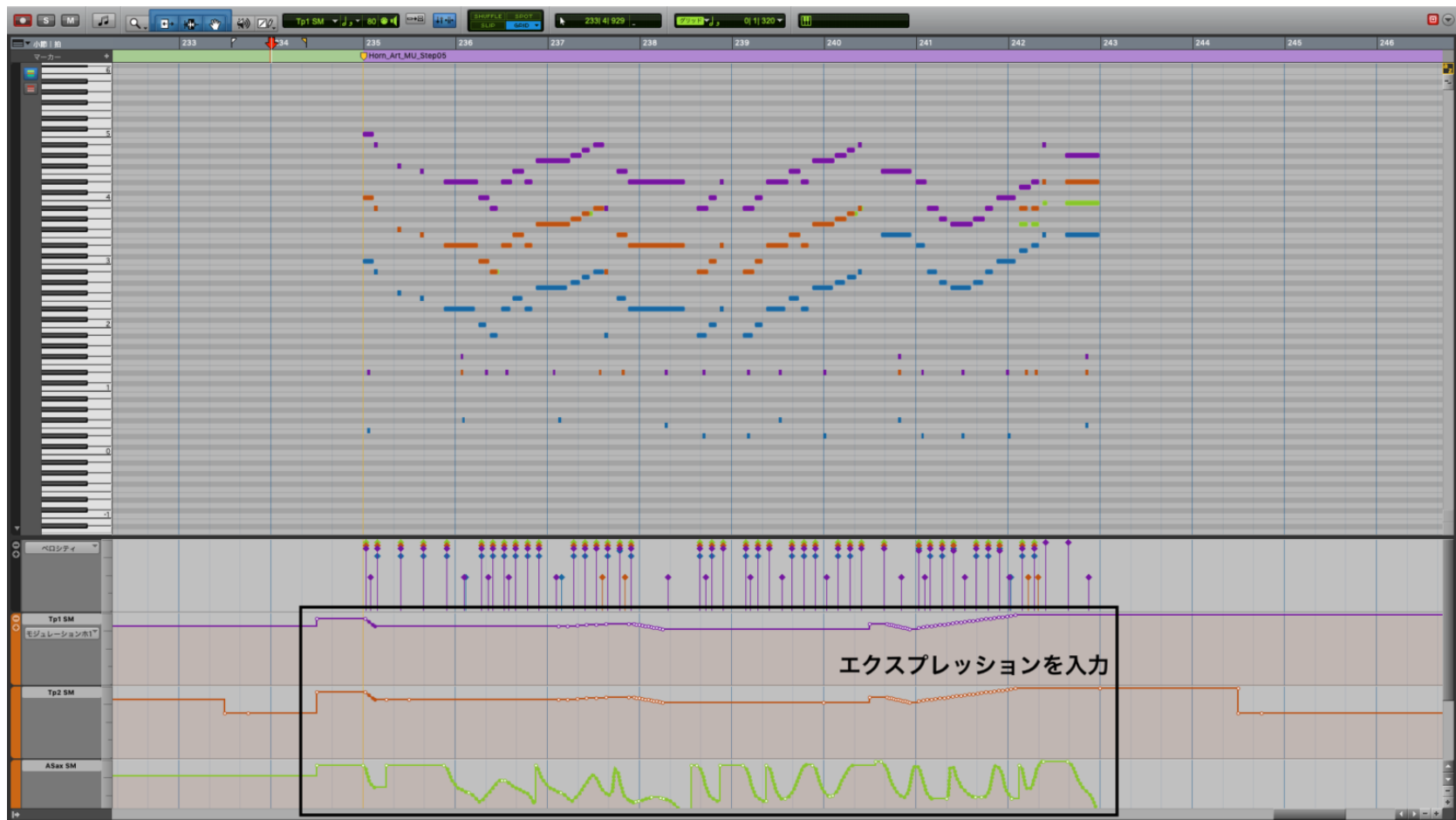
## ⑤ エクスプレッションを書く

つぎに、エクスプレッションを入力していく。まずは以下のものを中心にエクスプレッションでニュアンスをつけよう。

- クレッシェンド・デクレッシェンド
- フォルテピアノ
- マルカート・アクセント

これらが完了したら、残りの部分の細かい表情づけを行うとよい。

## ⑤ エクスプレッションを書く



The screenshot displays a music production software interface. The top section is a piano roll for a track named 'Horn\_Art\_MU\_Step05', showing a melodic line across measures 233 to 246. The bottom section is a mixer with three tracks: 'Tp1 SM', 'Tp2 SM', and 'ASax SM'. A black box highlights the automation curves for 'Tp1 SM' and 'ASax SM', with the text 'エクスプレッションを入力' (Input Expression) overlaid on the 'Tp1 SM' track.

## ⑥ 微調整して仕上げる

最後に、各所を微調整して仕上げ。エクスペッションを書いたことで、ベロシティやデュレーションなどを微調整したい箇所も出てきた場合は、それらを細かく調整しよう！